

H26年建築1級学科試験問題

- No1** 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
- 1 汚染物質が局所的に発生する場所では、汚染物質が拡散する前に捕集し排気する方法が有効である。
 - 2 必要換気量は、換気をする室の1時間に必要とする外気量で表すことができる。
 - 3 室内の換気を効率よく行うためには、給気口から排気口に至る換気経路を短くする方がよい。
 - 4 熱交換器は、冷暖房時に換気による熱損失を軽減するために用いられる。

答え--- 3

室内の換気を効率よく行うためには、給気口から排気口に至る換気経路を長くする方がよい。短くすると換気されない部分が発生しやすい。

- No2** 採光及び照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
- 1 光束とは、単位時間当たり、発散、透過又は入射する光のエネルギー量をいう。
 - 2 演色性とは、照明光による物体色の見え方についての光源の性質をいう。
 - 3 光度とは、反射面を有する受照面の光の面積密度をいう。
 - 4 昼光率とは、全天空照度に対する室内のある点の天空光による照度の比をいう。

答え--- 3

"光度"とは点光源からある方向の単位立体角内に放射される光束の大きさ
反射面を有する受照面の光の面積密度は"照度"である。

- No3** 音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
- 1 単層壁の透過損失は、一般に壁の面密度が大きいほど大きくなる。
 - 2 グラスウールなど多孔質の吸音材は、一般に高音域に比べて低音域の吸音率が大きい。
 - 3 残響時間は、室の容積が大きいほど長くなり、室内の平均吸音率が大きいほど短くなる。
 - 4 コインシデンス効果とは、入射音波と板材の共振により、遮音性能が低下する現象をいう。

答え--- 2

多孔質の吸音材は高音域のほうが吸音率が良い。低音域の低音率を高めるなら密度が大きいほうが効果的になる。

H26年度1級建築施工管理技士試験問題と解答～解説、全82問がスマホやP C、
タブレットでご覧になれます。

また、82問すべてのダウンロードや印刷も可能です。

**ここからは会員ページです。
ご覧いただくにはご入会が必要になります。**